

金沢市立小立野小学校

[はじめに]

本校は、金沢市の犀川と浅野川に挟まれた小立野台地に位置し、昭和34年に開校した。全校児童は506名、教職員32名である。

校区の北側には、天徳院や宝円寺など加賀百万石前田家のゆかりの神社・仏閣が散在し、西側は古くからの商業地域であり、歴史の香り豊かな環境の中にある。地域には古くから歴史と伝統を重んじる風土が根付いており、郷土愛に満ちている。

今年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

発見！ 私たちのまち「小立野」の魅力

～知る・かかわる・考える・小立野を発信～

1 ユネスコスクールとしての取組

3年生「小立野のひみつ」

社会科の学習の校区探検で生まれた興味や疑問をもとにして、「兼六園」「如来寺」「宝円寺」などの文化財や2つの総合病院、「坂」を見学し、地域の人に調査しながら探究していった。地域の自然や歴史、住んでいる人のよさを実感し、小立野のよさとしていつまでも残しておきたいという思いを土曜参観や学校行事を通して保護者や全校に発信した。



4年生「伝統工芸を学ぶ」

金沢仏壇の職人さんから箔押しを教えていただき、一緒に箔押し体験をした。簡単そうに箔押しする職人さんとはちがい、子どもたちは四苦八苦。改めて職人さんの技に触れることができた。体験の後には質疑応答もすることができ金箔職人さん達の思いにも触れた。箔押し体験を機に、金沢市や石川県の他の地域には金沢仏壇のほかにもたくさんさんの伝統工芸があることを知り、自分たちの住む金沢・いしかわに伝統が息づいていることを感じることができた。



5年生「金沢の里山」

環境保全の観点から里山の果たす役割やよりよいあり方などを探究した。自分の目で里山の植物や生き物にふれたり、森林を保全する人達の活動を見学したりする中で、里山が昔から人々のくらしと深く関わってきたことや、里山が環境を保全する上で重要な役割を果たしていることに気づいていった。また、里山の保全に関わっていこうとする気持ちも高まっていった。



6年生「金沢の町に学ぶ」

金沢を紹介するDVDを見たり、パンフレットなどを提示して金沢の魅力をつかんだ後、『美技』『美食』『美景』『美人』に分け、それぞれが調べ活動を行った。その中で特に伝えたい物をパンフレットにまとめた。お互いのパンフレットを紹介し合う活動を通して、さらに金沢の魅力を知ることができ、魅力ある町金沢についての意識が深まった。



2 成果と課題

E S Dの視点を取り入れて他教科との関連を考えながら「総合的な学習の時間」の学習を中心に取り組むことで、より探究的な学習になってきた。地域の環境や伝統文化に対する子ども達の関心が高まり、それらと自分とのつながりやかかわりに関心をもち、尊重し大切にしようとする態度が見られた。

しかし、資料や情報を整理し分析しながらさらに追求を続け、見方や考え方を深めていくことは、十分ではない。また、説得力がある成果物にまとめ、発信できるような表現力、行動力の育成についても課題が残る。

今後は、これらの活動を持続し発展させていくために、学習内容を充実させ、学校全体の系統性を考えていく。さらに、全校児童、地域、他校に向けて学習の成果を発信し提案することを進めていくとともに、地域や他校とのネットワークづくりを進めていきたいと考えている。